みんなで挑む！

学修者本位のキャンパスとガバナンス

北海道医療大学 理事長×学長×学生 座談会

「学生キャンパス副学長」制度を設け、学修者本位の大学づくりに取り組む北海道医療大学。キャンパス移転という大きな意思決定がなされた今、学生のためのガバナンスのあり方について聞く。

【法人】学校法人東日本学園
設立／1974年
他の設置校・機関／北海道医療大学
歯学部附属歯科衛生士専門学校、
北海道医療大学病院、
北海道医療大学歯科クリニック

【大学】北海道医療大学
創立／1974年（東日本学園大学）
キャンパス／北海道石狩郡当別町、札幌市
学生数／3,505人
建学の理念／「知育・徳育・体育 三位一体による医療人としての全人格の完成」
学部／薬学、歯学、看護福祉学、心理科学、リハビリテーション科学、医療技術
大学院／薬学、歯学、看護福祉学、心理科学、リハビリテーション科学、医療技術科学

理事長 東日本学園
鈴木 英二
すずきえいじ●1978年学校法人東日本学園入職。事務局長、副理事長などを経て、2021年10月より現職。

学生から選ばれる大学づくりのために学生の声を聞き教育改善につなげていく

努めています。近年は全国各地で医療系の学部の新設が相次ぎ、競争が激化し、高校生や学生にとって、本学で学ぶ魅力づくりは最重要課題です。そのため、学生の声を聞き、共に教育環境の改善、充実に取り組む「学生キャンパス副学長」（以下、学生副学長）制度を2008年から取り入れています。

同じ使命感のもと、経営と教学を役割分担

――「学生キャンパス副学長」制度など、学生の声を運営に生かす意図は？

理事長 本学は創立して50年と若い、後進の医療系総合大学です。そのため、常に課題を探して見直しを繰り返し、学生から選ばれる大学づくりに

学長 国家資格をめざす学部が多い本学の場合、カリキュラムに縛りがあるため教育「内容」の差別化は難しく、魅力を打ち出すなら教育「手法」ということになります。これまで本学は、多職種連携によるチーム医療の学びを特徴としてきました。学長に就任し、医療従事者をめざす学生に選ばれるような大学の魅力とは何かを考えたとき、私は「就職後に困ったときに頼りになるような大学」が思い浮かびました。この背景には、かつて、自分が保健所に勤めていた際に経験したリアリティショックや、ケアに対する壁があります。医療職は、資格取得しさえすれば終わりではなく、現場で働いて初めてわかることが多々あります。だからこそ、「卒業後のよりどころ」になるような大学づくりをめざしたいのです。

卒業後にいつでも戻って来られる、戻って来たくなるキャンパスをめざしたい

学長 北海道医療大学
三国 久美
みくにくみ●1993年東日本学園大学（現・北海道医療大学）大学院看護福祉学研究科博士課程修了。2007年同看護福祉学部看護学科教授。2019年同学部長。2024年4月より現職。

理事長 学長と私は、学修者本位の教育が本学の使命だという点で一致しており、教学は学長に一任しています。理事長の私の役割は、学長が活動しやすくなるよう人的・物的・資金的バックアップを行うことだと考えています。

中川 薬剤師をめざしています。医療や福祉の世界では、今、他の職種と協働してケアの質を向上させる多職種連携が重視されるようになっています。「医療系総合大学」として、他学部の先生に教わったり、学部合同で学んだりする機会が多いところに魅力を感じ入学しました。今4年生で、来年は薬局実習に行きます。AIの普及で薬剤師業界の自動化が進む中、人の手でしかできないことは何なのかを考えながら、授業で学んできた知識と現場での実際をすり合わせていきたいと思っています。

平田 中学校時代、スクールカウンセラーに助けられた経験をきっかけに、自分もこの仕事をめざそうと決めました。公認心理師の受験資格を取れる大学は道内にいくつかありますが、現役カウンセラーの先生がいることと、中川さんと同じく多職種連携に強いことが入学の決め手になりました。教育も医療も時代の変化が激しいので現役の先生に教わりたいし、就職後に医療機関と連携することを考えると、その経験も積んでおきたいからです。症例を見て支援のしかたを考えさせる授業があったり、学生が参加できる学会や講演を案内してくれたり、主体的に学びたい人にはうってつけの環境です。

学長 よかった。いくら教育方法を工夫しているつもりでも、学生の受け止め方を知らないと、大学側の自己満足で終わってしまいます。今後も学生との対話を重ね、教育改革を進めていきます。

学部間の協働を促してスピード感ある改革を

学長 今、進めたいと思っているのは学部間連携です。一部の学部では、積み上げた学びを学生が振り返るポートフォリオが効果を上げています。こうした各学部の優れた手法を全学展開し、教育の質を上げていく事を考えています。

平田 心理科学部にも、学んだことを振り返る機会はありますが、授業によりますが。ポートフォリオに実績や経験を蓄積できるしくみがあるなら、使ってみたい。

理事長 多職種連携のような、学部間における授業上の協働は多いのですが、業務上の協働はこれからです。知見やリソースを共有できれば、改革のスピードが上がるはずです。

中川 学生副学長は、学部ごとにいるので、学生副学長同士で学部間の情報交換をして、「他学部の取り組みをうちの学部でもやってほしい」といった要望を大学に伝えられる立場にあります。私は2022年の8月から1年間、薬学部の学生代表として第15期学生副学長を務めました。在任期間は、コロナによる対面機会の制限がやっと緩和された時期だったので、まずは学生間の交流を復活させようと、スポーツイベントなどを企画するほか、後援会とコラボして国家試験の受験勉強に励む学生向けに食事の無料提供を実施し

学生キャンパス副学長

各学部から1人ずつ、選挙によって選ばれた学生計6人が、より良い大学づくりを目的に各種プロジェクトを立ち上げ、活動する。任期は1年間（8月～翌年7月）。就任した学生には1人につき活動費30万円とブレザー、専用活動室が与えられる。学務部学生支援課を中心とする教職員、卒業生が活動を支援。

〈過去のプロジェクト例〉
- ●リアルヴォイスアンケート（コロナ禍中における学生の声を調査）
- ●薬物乱用防止対策（学外団体から依頼を受けて実施）
- ●当別町150周年記念イベント
- ●他大学視察　●大学ブランド商品開発
- ●学部間交流　●成績向上　●リサイクル

学生キャンパス副学長Webサイト

資格取得だけが大学のゴールではないはず、多様な意欲が後押しされる環境を

薬学部 4年 北海道医療大学
中川 明音
なかがわあかね●2021年入学。先輩の活動を見て学生副学長を知り、2022～2023年、第15期学生副学長として活動。手に職をつけようと薬学部を選んだが、現在は研究者への道も視野に入れる。

僕ら学生も提案と実現の実績をつくって「言ったら変わる」空気をつくる

心理科学部 3年 北海道医療大学
平田 勇輝
ひらたいさき●2022年入学。1年次から学部学生部の教員に学生副学長参加を勧められ、2年目に意を決して立候補。2023～2024年、第16期学生副学長。将来はスクールカウンセラーをめざす。

取材・文／児山雄介　撮影／小森学

ゼロからのキャンパスづくりに学生のアイデアを生かしていく

ました。しかし、教育環境の改善については、学生アンケートの結果を大学に報告したところで任期が終了してしまったので心残りです。学生が声を上げ、大学に提案できる制度があること自体がいいことなので、この制度を利用して、大学運営に携わりたいという学生をもっと増やしたいところです。

平田　私をはじめとした16期の学生副学長は、中川さんたちの代が集めた学生アンケートを分析して、要望の内容、実現したときのメリットや実現するまでの課題を整理しました。自習室設置の要望が多かったことを知った学生支援課の職員さんに勧められて、他大学の視察にも赴き、空き教室をアプリで管理して、自習スペースにするというヒントを得ました。この先は、次の17期の副学長に引き継ぎます。

学長　学生の声の窓口は学生支援課が担っています。それに加え、学生自身が自らアンケートを取り、要望をわれわれに直接届けてくれています。要望にはできるだけ応えるつもりですが、実現できないことが出てきたとしても、理由をしっかり説明したい。その積み重ねが学生からの信用につながると思うからです。

理事長　学生の声を生かす場はもっと増やしたいと思っています。将来的には、各学部の教務委員会などに学生を入れて、教育の内容や方法を改善していくことも検討しています。

移転を機に加速する学生中心の大学づくり

――2028年に予定する北広島市へのキャンパス移転に、学生の声をどう生かしますか？

理事長　移転の決断を後押ししたのも、学生の声でした。現在のメインキャンパスである当別キャンパスは、石狩平野の広大な敷地に学部棟や実習室に加え、附属の歯科クリニックや薬用植物園もある、落ち着いて学べる学習環境です。札幌から電車1本で1時間以内、大学名がつく駅から直結というアクセスも、設置した当初は本学の魅力になっていました。しかし、時代は変わったのです。

学長　学生アンケートでは、冬季は積雪による列車の遅延や国道の閉鎖で大学に通えない、帰れない、アルバイト先が見つけにくいという問題が寄せられました。入学辞退者調査で挙がった辞退の理由も、圧倒的に「立地」が多いのです。

理事長　2022年、理事会の事前検討機関として「理事会意見交換会」を立ち上げ、18歳人口減少下の生き残り策について議論を始めました。「公立化」「M&A」など、あらゆる可能性についてシミュレーションする中で、利便性が高いうえに、本学の強みである保健、医療、福祉の連携をまちづくりに生かせる北広島市への「キャンパス移転」を決めました。

中川　キャンパス移転は私の卒業後ですが、きれいなキャンパスは魅力的です。新しいキャンパスづくりを機に、教材の電子化やデジタルシステムを使った教育の実施など、教育のICT化なども進むといいと思います。

平田　すでにあるしくみを変えるのは難しいけど、ゼロからの新キャンパスづくりなら、いろいろ変えられそうです。学生にとっては、要望を取り入れてもらうチャンスです。例えば、今は同じキャンパス内でも学部棟が別々なので、連携授業を除くと他学部の人と交流することが、案外少ないのです。普段からもっと交わる機会があるといいのですが。

理事長　そのとおりですね。多職種連携についても日常生活でも、学部間の交流を促すような建物の設計を考えています。

学長　2人のように、移転時には学部を卒業している学年だとしても、未来の母校の姿に興味を持ってくれる人は多いはず。その人たちにとっても戻って来たくなる場所にしたいですね。今ちょうど、移転に関するプロジェクトをいくつも立ち上げており、すでに、女性教職員によるプロジェクトでは、安心安全な職場環境について議論しています。学生プロジェクトも始めるので、ぜひ、意見を出してください。

中川　新しいキャンパスづくりに学生が参画できることは、とてもいいことですね。私自身の問題意識として、医療系大学は、資格取得がゴールになりがちになっていると感じています。資格取得のための教育はもちろん大切ですが、研究についても、もっと取り組みたい。今、私はいくつかの研究室に頼んで自主的に研究活動をしています。学生の自主研究を支援するしくみや環境の整備もお願いします。

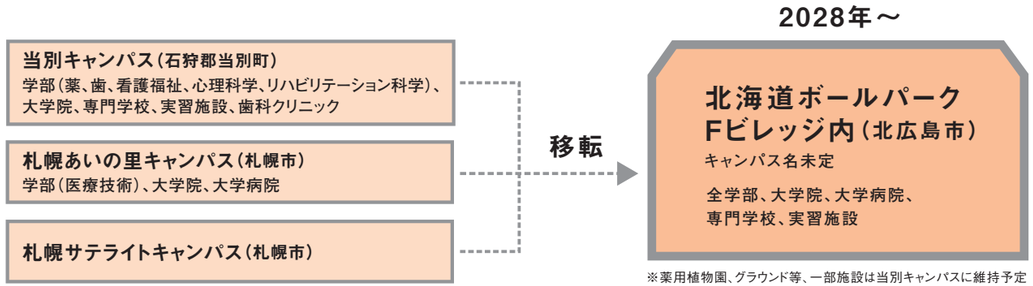
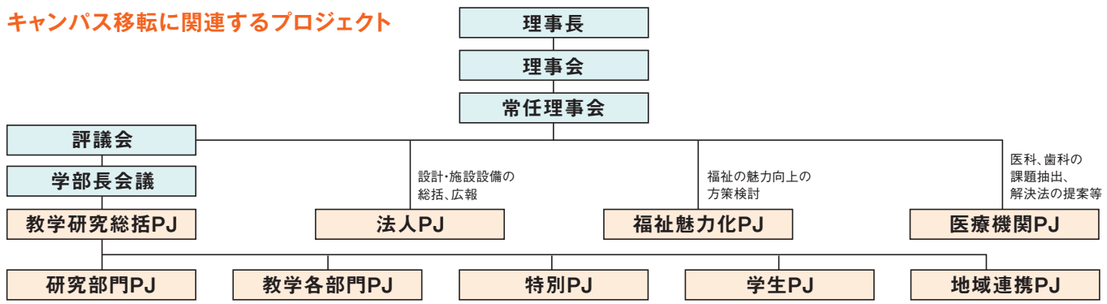
学長　なるほど、ありがとう。学生がやりたいことを支えてこその大学です。資格取得以外にも、多様な意欲をサポートできないといけませんね。本学の学生には学びの質を高めたいと考えるアクティブな人が多く、授業で培ったケアの精神を生かして、高齢者ボランティアに取り組んでいるグループもあります。北広島市でもどんどん地域に出てほしい。学生が地域に出向き、地域の人々も気軽に利用できる、オープンな大学をめざします。

理事長　現在、理事で客員教授も務めてくれている卒業生がいます。彼は、学生時代に生活支援サービスを行うボランティアセンターをつくり、卒業後すぐに、同級生と共に当別町で社会福祉法人を立ち上げました。地域連携や医療・福祉人材の育成について、いつも貴重な意見をもらっています。キャンパス移転プロジェクトのうち、福祉の仕事のやりがいを発信する福祉魅力化プロジェクトを提案いただき、その責任者（担当理事）として活動してもらっています。

平田　卒業後に大学運営に関わる道もあるのですね。移転というこの機会に、キャンパスは学生と一緒につくるんだという姿勢を大学には強くアピールしてほしいし、僕ら学生も、大学に伝えた、変わった、という実績を積み上げて、後輩に示し、学生の大学づくりへの参画を促していく必要があるでしょう。

もし、卒業後に理事や評議員への就任を頼まれたら？ 在学中にはできなかったことも多いので、そのときの自分の立場で、学生の力になれることを考えてみたいですね。

キャンパス移転計画と、学生を交えた新キャンパスPJの体制



キャンパス移転に関連するプロジェクト